

# 校長室からのお知らせ

4月9日号 NO.1

岸和田市立山直北小学校  
校長 尾野 武志

よろしく願ひいたします

今年度も、山直北小学校の校長としてお世話になる 尾野 武志 です。

「まだ、尾野かあ。」や「また、尾野かあ。」と思われた方も多数おられると察しますが、「無理なく 無駄なく できる範囲での精一杯」を目標にして、がんばっていきますので、よろしく願ひいたします。

さて、4月4日（金）に入学式が行われ、97名の新1年生をお迎えすることができました。6年生が卒業して少し寂しくなりましたが、新1年生が入学してくれたことで、微笑ましさと新たな希望を学校に運んでくれたように感じています。「新1年生のみなさん、山直北小学校に来てくれて、本当にありがとう。」って素直に思っています。

実は、入学式で新1年生に「願ひ」をしました。

**「山直北小学校を大好きになってください。そのためには、お友だちといっばい遊んでください。遊べば遊ぶほど、小学校が大好きになります。たくさんの先生といっばいお話をしてください。お話しすればするほど、小学校が大好きになります。勉強をいっばいして、賢くなってください。勉強すればするほど、小学校が大好きになります。いっばい遊んで、いっばいお話をして、いっばい勉強して、山直北小学校を大好きになってください。」**

**「山直北小学校には、たくさんの先生がいます。先生方は、みなさんを助けます。先生方は、みなさんを守ります。先生方は、みなさんの味方です。分からないことや困ったことがあれば、どの先生に聞いても大丈夫です。だから、安心して学校に来てください。」**

という「願ひ」をしました。この紙面を作りながら少し考えていますと、この「願ひ」は、新1年生だけに伝えるものではなく、2年生から6年生も含めた全校児童に頼みたい「願ひ」に、私の中でレベルアップしてしまいました。そして、昨日の始業式の「校長先生のお話」のコーナーで、子どもたちに「願ひ」をしてしまいました。保護者のみなさま、小学校が大好きで、先生方を信じる子どもたちを育むためのご協力をお願いいたします。

# 校長室からのお知らせ

4月21日号 NO.2

岸和田市立山直北小学校  
校長 尾野 武志

## 校長室からのお知らせ

昨年度に続き、同じタイトルで保護者のみなさまに「お知らせ」させていただきます。「お知らせ」の中身は、本当にくだらないことが大半で、大事なことは滅多に書かれていませんので、あまり重要視しないようお願いいたします。また、紙の値段も驚くほど高騰していますので、資源保護のために昨年度の週に1号ペースを改め、月に1号程度を発行するようにしようと思っております。その分、濃い中身になるように尽力していきます。

さて、新しい年度が始まり、2週間が過ぎようとしています。お子さまの様子はいかがでしょう。実は、大人がなるイメージが強い「5月病」に小学生の子どもがなる可能性が高くなっていると聞き、少し心配しています。

クラス替えや新しい担任の先生という環境の変化に、慣れようとはがんばり過ぎて、子どもなりにストレスをためこんでしまうことがあるようです。その結果、・イライラしている・疲れている・食欲が落ちている・表情が暗い・体調がすぐれない・寝つきも寝起きも悪い・学校に行きたがらない等の症状が出ることもあるようです。

大人が苦しくて辛くなる「5月病」ですので、子どもにとっては相当な負担になっています。特効薬があればいいのですが、今のところ開発はされていないようです。お子さまの様子で気になることがあれば、まずはゆっくりと過ごさせてあげ、リラックスさせてから、時間をかけてじっくりとお子さまの話を聞いてあげてください。「がんばっていると思うよ。」や「少しずつでいいよ。」や「きっと大丈夫だよ。」等の言葉でこたえていただくことで、お子さまの心も体も楽にしてあげることができると思います。保護者のみなさまのお子さまへの温かい言葉が、特効薬になると信じています。

保護者の方が、お子さまのことで悩みすぎてしまったり、抱え込みすぎてしまったりすることは、決してプラスにはなりませんので、よろしければ学校に相談していただきたいと願います。学校では、スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら対処法を見つけ出していくこともできますので、頼っていただけると幸いです。

# 校長室からのお知らせ

5月12日号 NO.4

岸和田市立山直北小学校  
校長 尾野 武志

## 尾野の常識は非常識かも

先日、もうすぐ4歳になる孫を自宅近くの公園で遊ばせていた（孫に言わせると一緒に遊んでいたになります）ときの実話をお伝えします。

孫をブランコ（幼児用の落ちにくいタイプです）に乗せて、じいじ（尾野のことです）は後ろから押したり前に回ってはキックをされて倒されるフリをしたりしながら遊んでいると、孫よりも小さい子（見た目での性別は分からなかったです）を連れた若いお母さんが寄ってこられました。

ブランコは2台並んでいましたので、孫が乗っていないもう1台は誰も乗っておらず空いていましたが、お母さんはベンチに座ってスマホを触りだし、お子さんはお母さんの近くで立ったまま、私と孫の様子を見ているようでした。倒されるフリにも疲れてきたので、「滑り台に行こう。」と孫をブランコから降ろすと、スマホを触りながらお母さんが「おっちゃんに乗せてもらい。」とお子さんに言ったのが聞こえました。私と孫、スマホのお母さんと小さいお子さんしかいない状況で「おっちゃん」と呼ばれるのは私しかなくて、私がお子さんをブランコに乗せることになりそうな雰囲気には驚き、「孫をほっておくことはできませんので・・・」と私なりに丁寧に断りました。

すると、そのお母さんはお子さんに「帰るで。」と言って、お子さんの手を強引に引っ張りながら公園から去っていかれました。私自身が後悔したり反省したりする必要はないと思いながらも、手を引っ張られているお子さんの後ろ姿が心に残り、少しぐらい孫を待たせてそのお子さんをブランコに乗せてあげていれば、気持ちの良い時間になっていたのかなと考えたりしましたが、何かスッキリとしません。「おっちゃんに乗せてもらい。」は私の常識の範囲を超えており拒否しましたが、違う頼み方をされていれば孫とそのお子さんの二人を相手に、がんばれたような気がします。

しかしながら、様々な場面で「尾野の常識は非常識」に直面することが多々あり、「おっちゃんに乗せてもらい。」は、非常識にならないのではと自信がなくなってきました。保護者のみなさまは、どのように思われますか。機会があれば、教えていただきたいと思います。

# 校長室からのお知らせ

5月19日号 NO.5

岸和田市立山直北小学校  
校長 尾野 武志

## 命を守るためのご協力を

東京都立川市の小学校で、傷害事件が起きました。とてもショッキングな事件で、学校としても対策を検討しています。山直北小学校には正門、三田門、岡山門と、児童が登下校する際に使用できる門が3ヶ所あります。

様々な事情で登校時刻である8時25分に間に合わないお子さんもいるため、これまでは門を閉める時刻を少し遅めにしていましたが、子どもたちの安全を守る観点から、門を閉める時刻を8時30分に変更します。お子さまの命を守る手段の一つとして考えていますので、8時から8時25分までに学校に着くように、ご自宅から送り出していただくようお願いいたします。時刻を合わせて登校することで、登校中にケガをした場合も学校に連絡が入りやすく状況も把握しやすくなります。さらに、不審者に声をかけられるリスクも減少します。お子さまの命を守るために有効な手段だと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

また、今年からモジュール学習に取り組んでおりますので、8時30分から朝の学習が始まります。お子さまの教育を受ける権利を確保するためにも、遅れることがないように保護者のみなさまのお力添えをお願いします。

万が一、8時30分に間に合わなかった場合は、正門のインターフォンを押して、学年と組と名前を伝えてもらえれば自動扉を開錠します。三田門や岡山門にはインターフォンが設置されていませんので、8時30分を過ぎると正門まで移動しなければなりません。距離もありますし、自動車も通る道路を歩きますので安全面でも不安があります。8時から8時25分までの登校が当たり前になるようにお子さまに習慣づけるようお願いいたします。

しばらくの間は、職員がそれぞれの門で登校指導を行います。ただ、授業もありますので、8時45分頃には校内へ戻ります。

たった1回の遅刻で、それまで築きあげてきた信用も信頼もなくしたと聞くことがあります。また、集合時刻に遅れることで周りの人たちに迷惑や心配もかけているのも事実です。お子さまは安全な、保護者のみなさまにとっては安心な「登校」に、ご理解とご協力をお願いします。

# 校長室からのお知らせ

5月26日号 NO.6

岸和田市立山直北小学校  
校長 尾野 武志

## 国語の勉強 パート2

5年生の国語の教科書に載っている「大造じいさんとガン」というお話（不朽の名作だと個人的には思っています）をご存知の方も多いと思います。

しかしながら、最近ある方から聞いた話が「大造じいさんとガン」への厳しい「ダメ出し」で、「う～ん」ってなっています。

まず、大造じいさんがガンをおびき寄せるのに「タニシ」を使っていることに関しての「ダメ出し」です。【ガンは海藻類が主食で、生物学上は「タニシ」等の貝類は食べない。小学校では、理科で様々な生き物の生態について正しく教えようとしているはずなのに、国語の教科書に書かれている「ガンをタニシでおびき寄せる」という嘘を見逃していいのか。】と問われ、「う～ん」ってなりました。

さらに、このお話の舞台が鹿児島県とされていることに関しての「ダメ出し」では、【日本に飛来するガンの大半が越冬するのは宮城県北部で鹿児島県に飛来した記録はほぼなく、まして大軍を率いることはあり得ない。】と断言されました。またまた、「う～ん」です。

極めつけの「ダメ出し」は、【ハヤブサは猛禽ではあるが体長は40cm～50cmの中型の鳥類に属しているため、体長60cm～90cmの大型鳥類に属すガンを空中で襲うことはあり得ない。万が一、大型猛禽類に襲われても、自然界では群れの生存を最優先すべきがリーダーであり、おとりのガンを救おうとする行為はリーダーとして失格である。リーダー失格者を英雄と呼べますか。】と問われてしまいました。またまたまた、「う～ん」となっていました。

おしゃっていることは、正しいと思います。教科書に載っている物語を科学的な見地から検証することも興味深いです。しかしながら、難しいことは考えずに物語に引き込まれ、時間を忘れて一気に読み終えるような作品に子どもが会うことも「国語の勉強」の魅力の一つだと思っています。保護者のみなさまの記憶の中に残っているお話が、小学校の国語の授業で習ったものなら、教育関係者としてはうれしい限りです。